

富山でシンポ

役割と居場所が大切

引きこもり どう向き合う

自宅に引きこもる人たちとの向き合い方について考える「超居場所会議」が6日、県民会館で開かれ、県内外の支援団体がシンポジウムで意見を交わした。参加者約50人は具体的な活動内容を聞き、引きこもりの人たちに対する支援の現状と課題に理解を深めた。

(川崎那月)

引きこもりの人たちが、社(泉)を運営するNPO法人教会へつながらる第一歩を踏み出すきっかけをつくろうと、宇奈月自立塾(黒部市宇奈月温)が企画した。県の補助金を活用した。



シンポジウムで意見を交わす(左から)宮田代表、川又代表、山田代表、牟田理事長

シンポジウムでは、自立支援施設「ピースフルハウスはぐれ雲」(富山市)の川又直代表、引きこもりの人の在宅ワークをサポートする「Meta Anchor」(メタ・アンカー) (東京)の山田邦生代表、引きこもりや不登校などの人たちが交流する施設「コミュニティハウスひとのま」(高岡市)の宮田隼代表がパネリストを務めた。牟田理事長が進行した。

農業を通じた集団生活によって若者の自立を目指す川又代表は「役割を与えられることで、そこが居場所と感ずることが出来る」、山田代表は「対面でコミュニケーションをとるためのステップとして、インターネットは大事な手段だと思う」、宮田代表は「孤独を感じていた人が、立ち止まれるような場所を提供していきたい」と語った。牟田理事長は「それぞれの人に合ったオーダーメイドの支援をこれからも続けていきたい」と話した。

シンポジウムに先立ち、山田代表が「ひきこもりに至る社会背景と、オンライン支援の可能性」と題して講演。動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信した。